道徳の時間での活用

遠別町立遠別小学校

小学校 第１学年	**主題名** あたたかい心で親切に　内容項目Ｂ〔親切、思いやり〕 **教材名** 「はしの上のおおかみ」（「わたしたちの道徳　小学校１・２年」P70-73） 「思いやり」（「おもてなしハンドブック　小学校１・２年」P6-9）

1　本時のねらい

幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる。

2　教材について

本教材は、登場人物であるおおかみの思いを想像させ、優しく接したときの気持ちよさを感じ取らせるとともに、くまの後ろ姿から親切について考えさせることができる教材である。

① おおかみは、山の中にある長くて細い一本橋の真ん中で、うささぎを追い返し、大いばりで橋を渡ったことが面白くなり、それからは用もないのに小さな動物たちを追い返すようになった。

② あるとき、自分よりも体が大きいくまに出会ったおおかみは、自分からこそこそ戻ろうとする。

③ しかし、くまは、優しくおおかみを渡らせてくれる。

④ おおかみは自分に優しく橋を渡らせてくれたくまの姿から、温かく接することの大切さに気付き、自分がこれまで意地悪をした動物に優しく接するようになる。

「おもてなしハンドブック」を思いやりの心を伝える具体的な行動などについて考える場面で活用することにより、道徳的実践に結び付けることができるようにする。

3　本時の展開

過程	○発問等（◎中心的な発問）　・子どもの反応	◆指導上の留意点　◇評価
導入	○　この写真を見て、思うことは何ですか。 ・○○さんは、テーブルの汚れを消していてえらい。 ・牛乳パックがぐちゃぐちゃになっていて、だめだと思う。きれいにした方がよい。	◆本時のねらいに迫ることができるよう、学校生活で、親切にしている様子や、そうでない様子の写真を提示する。
展開前半	○　「はしの上のおおかみ」（「わたしたちの道徳」P70-73）を読んで考えましょう。 ○　みんなを追い返して意地悪をしているおおかみはどのような気持ちだろう。 ・一番強くて、一番えらいのはぼくだ。 ・通せんぼは楽しいな。 ○　おおかみは、くまの後ろ姿をどのような気持ちで見ていたでしょう。 ・あんなに強いのに、なぜ優しくするのだろう。 ・何だか格好がよい。 ◎　うさぎを抱き上げ、後ろへそっと下ろしてやったおおかみは、どんなことを思ったでしょう。 ・相手に優しくすると、自分も気持ちがよい。 ・うさぎさんが喜ぶと、自分もうれしい。	◆登場人物の行動について考えさせることができるよう、挿絵などを活用する。
展開後半	○　思いやりの心を伝えるには、どのようにしたらよいでしょうか。 ・明るい笑顔で声をかける。 ・優しい言葉をかける。 ○　「おもてなしハンドブック」の P8「荷物をもったお年よりがいます。階段があってたいへんそうです。」に記入したことを交流しましょう。 ・荷物を持って階段を一緒に上る。 ・荷物を持ちましょうかと聞く。	 <「おもてなしハンドブック」P8> ◇身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようと考えている。（発言、記述内容）
終末	○　先生の話を聞きましょう。 ○　授業後の日常生活の中で、思いやりの心で接したことがあれば、「おもてなしハンドブック」P7 の「思いやりの心で接したことを書きましょう。」に記入しましょう。	◆道徳的実践に向けた意欲を高め、具体的な見通しをもつことができるよう、教師の体験に基づいた説話を行う。 ◆「おもてなしハンドブック」（P7-9）を活用する。

4　授業の記録

(1)　「おもてなしハンドブック」P8 への記述

・みんなで荷物を持ってあげる。
・荷物を持つのを手伝ってあげる。
・「重そうだから、荷物を持ってあげましょうか」とたずねる。

5　板書、ノート等

<「おもてなしハンドブック」への記述内容>

<効果的に挿絵を活用した板書>

実践のポイント

○　思いやりについての考えを深めることができるよう、展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、日常生活における行動等を考え、交流する機会を位置付ける。

○　温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てることができるよう、「わたしたちの道徳」の挿絵や読み物資料を関連させて、多面的・多角的に考える発問を工夫する。

道徳の時間での活用

砂川市立空知太小学校

小学校 第１学年	**主題名** 気持ちのよいふるまいを　内容項目Ｂ〔礼儀〕 **教材名** 「たびに出て」（「私たちの道徳　小学校１・２年」P60-63） 「あいさつ・れいぎ」（「おもてなしハンドブック　小学校１・２年」P2-5）

1　本時のねらい

自分も相手も気持ちよく過ごせるよう、挨拶や言葉遣いの大切さを理解し、明るく接しようとする態度を育てる。

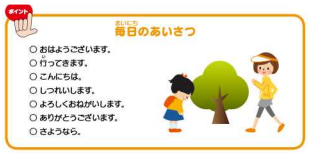
2　教材について

本教材は、挨拶は大切だと分かっているけれど面倒だという気持ちと、みんなが気持ちよく生活するために明るく接しようとする気持ちの両方をもつ主人公を自分に重ね合わせ、挨拶の大切さについて考えることができる教材である。

①　「あいさつじま」のさるたちは、いつもみんな元気に挨拶をする。
②　挨拶を面倒に思うさるのけいたは「あいさつじま」から旅立つ。
③　挨拶を面倒に思うさるのけいたは「あいさつのないしま」にたどり着いて、そのときのさるたちの対応に戸惑う。
④　「あいさつじま」のことを思い出したさるのけいたは、次の日から少しずつ明るく元気な挨拶ができるようになる。

「おもてなしハンドブック」を日常の挨拶や礼儀について振り返る場面で活用することにより、道徳的実践に結び付けることができるようにする。

3　本時の展開

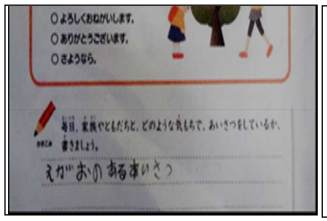
過程	○発問等（◎中心的な発問）　・子どもの反応	◆指導上の留意点　◇評価
導入	○　「毎日の挨拶にはどんなものがあるでしょう。」（「おもてなしハンドブック」P2）を読みましょう。 ○　家族や友達とどのような気持ちで挨拶をしているでしょうか。 ・笑顔で挨拶している。 ・ちょっとめんどうくさい。	◆普段の挨拶で感じていることを素直に書かせる。
展開前半	○　「たびに出て」（「私たちの道徳」P60）を読んで話し合いましょう。 ○　「あいさつじま」から出たけいたはどのような気持ちでしたか。 ・もう挨拶なんてしなくてもいいから楽だ。 ・挨拶なんかなくてもいいよ。 ○　「あいさつのないしま」では、どのようなことが起こると思いますか。 ・挨拶をしないので、仲良くなれない。 ・みんなの気持ちが暗くなる。	◆挿絵をテレビに映しながら、登場人物の気持ちを考えさせる。 ◆登場人物の様子から、自分の立場で考えさせる。
	◎　自分から「あいさつのないしま」に行ったけいただったのに、どのような思いで、次の日も次の日も挨拶を続けたのでしょうか。 ・挨拶は自分も相手も気持ちよくさせるから。 ・挨拶なんて面倒だと思っていたけれど、挨拶をしないと気持ちが暗くなってしまうから。	◇挨拶の大切さについて考えている。（発言）
展開後半	○　自分の「おもてなしハンドブック」の書き込みを見直してみよう。 ・適当に挨拶をしてしまっていたな。 ・いつもいい気持ちで挨拶ができていたな。	 ＜「おもてなしハンドブック」P2＞
終末	○　今日の学習を振り返り、これからどんな気持ちで挨拶をするとよいか、考え発表しよう。 ・みんなが気持ちよく過ごせるように、元気な挨拶をしていかなくてはならない。 ・家族や友達だけではなく、地域の人たちにも挨拶をしていきたい。 ○　先生の話を聞きましょう。	◇どんな気持ちで挨拶をしていくべきなのかを考えている。 （発言、記述内容） ◆道徳的実践に向けた意欲を高め、具体的な見通しをもつことができるよう、教師の体験に基づいた説話を行う。

4　授業の記録

(1)　「おもてなしハンドブック」P2 への記述
・明るく笑顔でしている。
・元気よくあいさつをするようにしている。
・はずかしい時もある。

(2)　振り返りでの子どもの反応
・みんなが気持ちよくなるように、明るくあいさつしたほうがよい。
・朝は元気がでるように、大きな声であいさつしたい。
・はずかしがらないで、いろんな人とあいさつしていきたい。

5　板書、ノート等



＜「おもてなしハンドブック」への記述内容＞

あいさつ
・おはよう
・ありがとう
・さようなら
◎今までどんなきもちであいさつをしている？
・はずかしい
・あかるく
・げんきよく
◎これから、どんなきもちであいさつをしますか？
・みんなが、きもちよくなるようにあかるく。
・えがおで、きもちをこめて。

＜児童の思考を整理した板書＞

実践のポイント

○　挨拶や礼儀についての考えを深めることができるよう、導入や展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、日常生活における挨拶や礼儀の仕方を考え、交流する機会を位置付ける。
○　挨拶や礼儀等の大切さを理解することができるよう、登場人物の心情が変化する場面で、心情が変化した理由を問う発問をする。

特別活動での活用

伊達市立伊達小学校

小 学 校 第２学年	**題材名**　「楽しい２学期を過ごすために」 **資料名**　「思いやり」（「おもてなしハンドブック　小学校１・２年」P6-9）

1　題材の目標

仲良く助け合い楽しい学級生活を送るために必要な思いやりの行動を具体的な場面として考え、日常の生活や学習に進んで取り組もうとする態度を育てる。

2　題材について

本題材は、望ましい人間関係を築く態度の形成が図られるよう、２学期の学級目標から、友達と仲よくすることに視点を当て、日常の生活と関連付けながら、集団での話合いを通して、個人の目標を自己決定し、個人で実践できるようにする題材である。

「おもてなしハンドブック」を思いやりの心を伝える方法や具体的な行動について考える場面で活用することにより、道徳的実践に結び付けることができるようにする。

3　本時の展開

過程		□主な活動　・子どもの反応	◆指導上の留意点　◇評価
本時の活動	導入	□　学級目標を再確認し、個人の目標を立てるという活動の見通しをもつ。 □　楽しい学級にするためには「心」に関する目標が大切になることに共通理解を図る。	
	展開	□　本時のめあてを知る。 「だれにでも　やさしい　３組」の学級目標を達成するには、どうしたらいいのだろう。 □　「やさしい心」はどうしたら伝わるか考え、「おもてなしハンドブック」P6 で確認する。 ・言葉で　　・表情で ・態度で　　・行動で □　具体的な場面①を想定し、「やさしい心（思いやりの心）」をどう表し伝えるのかを考え、「おもてなしハンドブック」P7 に書き込む。 ・注意をしてあげる。 ・一緒に渡ってあげる。	 ＜「おもてなしハンドブック」P6＞ ◆黒板に具体場面の拡大絵を提示し、子どもの考えを板書する。 ◆「おもてなしハンドブック」（P7）を、モニターで拡大提示する。
		□　友達と、書き込んだ内容について交流する。 □　「おもてなしハンドブック」P8-9 の具体的な場面を見て、自分ならどうするかを考え、友達と交流する。 ・手伝ってあげる。 ・どうしたの？と聞いてあげる。 □　考えを全体交流する。	◇具体的な場面での思いやりの行動を考えている。（発言、記述内容）
	終末	□　話合いを振り返り、「おもてなしハンドブック」P7-9 に書き込んだことを基に、２学期の個人目標を設定する。	

4　授業の記録

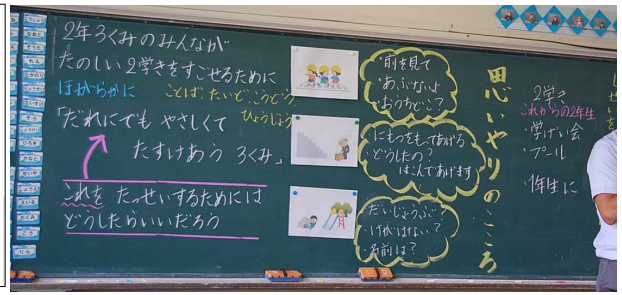
(1)　「おもてなしハンドブック」P7 への記述
- 「おうちの人は？」と、優しく尋ねる。
- おにぎりを持ちながら歩いている子どもに、「しっかり見て歩かないと危ないよ」と注意する。

(2)　「おもてなしハンドブック」P8 への記述
- 「荷物を持ちましょうか？」と声をかける。
- 荷物を持てないかもしれないけれど、大丈夫かどうか聞いてみる。

(3)　「おもてなしハンドブック」P9 への記述
- 「一人なの？どうしたの？」と、優しく聞いてあげる。
- 泣いている理由を、聞いてみる。

5　板書、ノート等

＜「おもてなしハンドブック」への記述内容＞



＜効果的に挿絵を活用した板書＞

実践のポイント

○　思いやりについての考えを深めることができるよう、展開で「おもてなしハンドブック」を活用し、日常生活における行動等を考え、交流する機会を位置付ける。

○　日常生活や学習に進んで取り組もうとする態度を育てることができるよう、学級や個人の目標と関連をさせて考える機会を位置付ける。

生活科での活用

羅臼町立羅臼小学校

小 学 校 第２学年	**単元名**　「まちは　たからばこ」 **教材名**　「わたしたちのふるさと」（「おもてなしハンドブック　小学校１・２年」Ｐ10）

1　本時のねらい

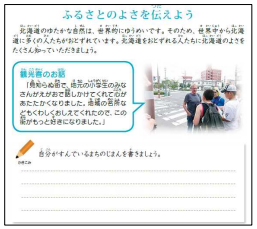
自分たちの生活にかかわっている人々や場所に親しみや愛着をもつつとともに、地域の人、こと、ものについて関心をもち、進んで交流することができる。

2　単元について

本単元は、自分が生活する地域に目を広げ、自然やお店、公共施設、働く人たちなどに関心をもたせることによって、自分たちが住む地域にはよいところがたくさんあり、自慢できる人がいることに気付くようにする単元である。

「おもてなしハンドブック」を町探検で気付いたことを書き込む場面で活用することにより、自分の町の素晴らしさを実感し、多くの人に町の自慢できるところを紹介したいという意欲を高めるようにする。

3　本時の展開

過程	□主な活動　・子どもの反応	◆指導上の留意点　◇評価
導入	□　これまでの学習を思い出す。 ・町探検へ出かけ、地域の身近な人々との交流を通して、町の様子や人々の様子など、学んできたことを振り返る。 ・友達や家の人、地域の人に、町探検で分かったことや考えたことを伝えたい。 □　本時の課題を確認する。 まちたんけんで見つけてきた　らうすのたからものを　しょうかいしよう。	◆伝えたいという思いや願いを高めるよう、活動したことや体験したことを振り返る。 ＜町探検の様子＞
展開	□　グループごとに紹介の仕方を確認する。 ・最初に○○について紹介する。 ・クイズにして紹介しよう。 □　グループごとに紹介する。 ①　みちのえきグループ ②　としょかんグループ ③　てんぼうとうグループ ④　ガソリンスタンドグループ □　感想を交流する。 ・魚屋のおじさんとお話するのが楽しかったよ。 ・発見したことを発表したらびっくりしてくれたよ。 ・○○君が発見したことがおもしろかった。また探検して確かめたい。	◆感想や質問のポイントを説明する。 ◇見付けたことや思ったことを自分なりの方法で表現している。（発言）【思考・表現】
終末	□　本時のまとめ らうすには、たくさんのたからものやじまんできるところがある。 □　発表を振り返り「おもてなしハンドブック」P10 に自分が住んでいる町の自慢を書く。 ・魚がおいしいよ。 ・クジラに会えるよ。 ・自然がたくさんあるよ。 □　自分が住んでいる町の自慢を発表する。 ・おいしい魚が獲れるところが自慢です。 ・観光船でクジラに会えることが自慢です。 ・美しい自然が自慢です。	 ＜「おもてなしハンドブック」P10＞ ◆自分たちが生活する地域にはたくさんの宝物があること気付かせるよう、探検して気付いた地域のよさを交流する。

4　授業の記録

(1)　「おもてなしハンドブック」P10 への記述

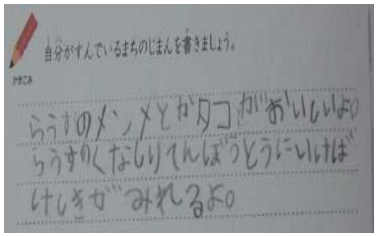
①　「自分がすんでいるまちのじまんを書きましょう。」への記述

・シャチやクジラ、ヒグマやシカなどの野生動物に会えること。
・海では、おいしい魚がたくさんとれること。
・展望塔からの景色が、きれいなこと。

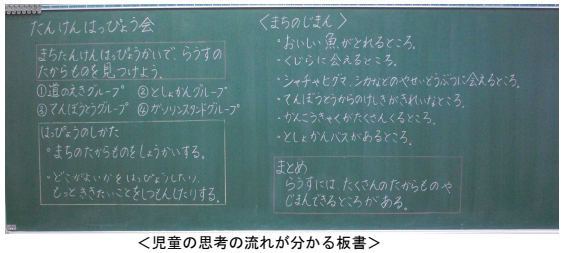
②　「自分がすんでいるまちのためにあなたができることを書きましょう。」への記述

・羅臼で冒険して、植物を調べて、みんなに教えたい。
・昆布場で、お手伝いして、昆布と魚をたくさんとりたい。
・自分の町のよさをみんなに知らせたい。

5　板書、ノート等



＜おもてなしハンドブックへの記述内容＞



＜児童の思考の流れが分かる板書＞

実践のポイント

○　郷土の文化と生活についての考えを深めることができるよう、終末で「おもてなしハンドブック」を活用し、ふるさとのよさを考え、発表する機会を位置付ける。

○　様々な人々と進んで交流しようとする態度を育てることができるよう、これまでの経験や体験を基に、地域の人々と主体的に関わる活動を位置付ける。

道徳の時間での活用

小清水町立小清水小学校

小 学 校 第２学年	**主題名**　ふるさとにしたしみをもって　内容項目Ｃ〔伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度〕 **教材名**　「ぎおんまつり」（「わたしたちの道徳　小学校１・２年」P154-157） 「わたしたちのふるさと」（「おもてなしハンドブック小学校１・２年」P10-12）

1　本時のねらい

郷土の文化や生活に親しみをもち、進んで地域に関わっていこうとする態度を育てる。

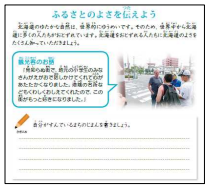
2　教材について

本教材は、地域が大切にしてきた伝統や文化、そこに生きる人々の思いについて考えることのできる教材である。

① 迫力ある京都の祇園祭は地域一体で行われている。
② 主人公が行っているお囃子の練習は、うまくいかず、叱られる事が多い。
③ 祇園祭は千年続いており、代々守られてきていると父親に励まされる。
④ その言葉を聞き、主人公は、続けてきてよかったと思っている。

「おもてなしハンドブック」を自分が住んでいる地域のよさや、地域のためにできることについて考える場面で活用することにより、進んで地域に関わっていこうとする主体的な態度を育てることができるようにする。

3　本時の展開

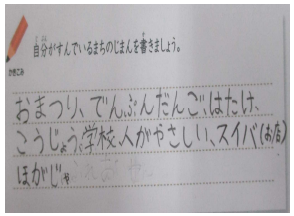
過程	○発問等（◎中心的な発問）　・子どもの反応	◆指導上の留意点　◇評価
導入	○　「自分がすんでいるまちのじまんを書きましょう。」（「おもてなしハンドブック」P10）に記入したことを交流しましょう。 ・祭りがあるところ。 ・自然がたくさんあるところ。 ・町の人が優しいところ。	 ＜「おもてなしハンドブック」P10＞
展開 前半	○　「ぎおんまつり」（「わたしたちの道徳」P154）を読んで話し合いましょう。 ○　ほこがうまく曲がれて、見物客から拍手が起こったとき、「ぼく」はどのようなことを思いましたか。 ・頑張ってお囃子の練習をしてよかった。 ・見物客がこんなに喜んでくれてうれしい。 ・自分たちの町にはいい祭りがあるんだな。 ◎　千年続く祭りと知ったとき、「ぼく」はどのようなことを思いましたか。 ・そんなに昔からあるなんて、すごいお祭りだな。 ・これからもずっと続いていくようにがんばろう。 ・自分もお父さんになったら、子どもに教えよう。	◆主人公の「ぼく」に共感できるよう、町が一体となって祭りを盛り上げていることを知らせる。 ◆祭りの大切さに気付くことができるよう、祭りの歴史に気付かせる。
展開 後半	○　「自分がすんでいるまちのために、あなたができることを書きましょう。」（「おもてなしハンドブック」P10）に記入したことを交流しましょう。 ・習っている和太鼓を引き継いでいきたい。 ・農家の仕事を受け継ぐために、家の手伝いをする。 ・ごみなどを拾い、きれいな町にする。	◇住んでいる町のために、自分ができることについて考えている。（記述内容） ＜授業の様子＞
終末	○　先生の話を聞きましょう。	◆道徳的実践に向けた意欲を高め、具体的な見通しをもつことができるよう、教師の体験に基づいた説話を行う。

4　授業の記録

(1)　「おもてなしハンドブック」P10 への記述

・和太鼓は、日本に古くから伝わる楽器だと聞いたので、上手にたたいて町のみんなに楽しんでもらいたい。
・育てた野菜を町の多くの人たちにおいしく食べてもらえるように家の畑の仕事をがんばりたい。
・他の地域の人たちにも町のよさを分かってもらえるように町のゴミ拾いをがんばりたい。

5　板書、ノート等



＜「おもてなしハンドブック」への記述内容＞

＜挿絵を効果的に活用した板書＞

実践のポイント

○　郷土の文化や生活について考えを深めることができるよう、導入や展開後半で「おもてなしハンドブック」を活用し、地域の一員としての生き方を考え、交流する機会を位置付ける。
○　地域に進んで関わっていこうとする態度を育てることができるよう、北海道や自分が住んでいる地域の写真などを提示する。